

石巻市民生委員児童委員協議会

～ 主任児童委員部会の取り組みについて ～

(平成 25 年 4 月 19 日掲載記事)

(1) 石巻市の概況

石巻市は、旧北上川の河口にあり、伊達藩の統治下には水運交通の拠点に位置する「奥州最大の米の集積港」でした。明治時代からは、金華山沖漁場を背景に漁業の町として栄え、石巻工業港が開港してからは、工業都市としても発展を遂げてきました。

石巻の主任児童委員は 16 地区、32 名が地域で活動していましたが、震災により沿岸部を中心に半数の地区が被災し、現在も数名の主任児童委員が活動拠点を失い、遠隔地での生活、活動を余儀なくされています。

(2) 現在までの活動状況

あまりにも甚大な被害のため、主任児童委員部会も 8 か月間活動休止の状態が続きましたが、委員の間から「少しずつでも前向きにならなければ」との声が高まり、震災前から部会活動として取り組んでいた「ふれあいサロン」を再開しようということになりました。

子育て支援センターの協力を得ながら、昨年 4 月から震災前より大幅に回数を増やし、月 1 回定期的に市内の保育所で開催することとしました。

朝 10 時からの開所を待ちきれず、30 分前から「おはようございます」の親子の笑顔で始まり、毎回 10～20 組の親子で賑わいます。未就学児が年齢を問わず参加できるので、市内遠方からのリピーターも多く、お互い成長の喜びを共有し、信頼関係を深めています。

育児に追われる母親たちと話をしたり遊んだりしながら、ひと時の間、訪れた親子にホッとできる空間を提供し、ひとりでも多くの母親に家に閉じこもらずに外に出てもらおうことが大事ではないかと考えています。

また、石巻市民児協や社協による「こども友遊村」も昨年より再開しました。これは未就学児から小学校高学年を対象とした昔の遊び（竹トンボ作り・段ボール迷路・丸太切り・紙芝居等）を通して親子の触れ合い等、絆を深めようとの趣旨のもとに開催されるもので、数百人の家族で賑わいました。



こども友遊村（竹トンボ作り）

(3) 仮設住宅での活動

仮設住宅に住む子どもたちの生活支援と居場所作りに向けての活動も一部の地域で実施しました。

震災以前に居住地が同一地区だった方が一緒に移り住んだ仮設団地に比べ、居住地区がさまざまなところから集まった方々が入居している仮設団地ではコミュニティ形成に困難が伴います。また、仮設住宅入居者への生活支援はたくさんいただきますが、子どもたちを対象とした継続的な学習や遊びの支援は多くありません。こういった生活環境にある子どもたちの生活実態を把握し、生育環境を見守っていく必要があるのではないかと県内外の大学生ボランティア、大学からの支援、自治会組織や社協など関係機関と連携



リレーションひろばの様子

しながら仮設住宅の子どもたちへの支援活動を月1回実施し、この活動を「**Relation** (リレーション) ひろば」と名付けました。人と人との強く太い「つながり」ができるよう今後も継続性を重視し、活動していきたいと考えています。

これまで、全国の民生委員・児童委員の皆様から、多大なご支援と励ましをいただき、本当にありがとうございました。これからもこのことを胸に刻み活動していきたいと思っております。